



森のなかま

2025年 4月号

NO. 202 (継続347号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 黒川 敏史

〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

【森林技術部会主催】 径路整備研修会

日時：令和6年12月21日（土）9:30～14:30 晴れ

場所：大野山トチヤの森班活動エリア

講師：真貝⑪、中澤⑬、統括岩田⑭

参加者：阿部⑧、湯浅⑪、斉藤⑬、大谷⑬、高谷⑬、田島⑬、野口⑬、藤田⑬、森本⑬、
三浦⑬、繁山⑬、田中⑬、山口⑬

本研修は、里山や公園等の径路整備作業の依頼やその指導の要望に、インストラクターとして対応できる知識、技術を身に付けることを目的とし、「一人で作業でき、初心者にも実演（見本）も見せられる」レベルを目標とし、それを目指して実習しました。丸太筋工で各工程の技能、道具の使用法等をマスターし、径路補修で活かします。番線とカスガイを体験、路肩の補強は直線的な径路で、「横木+杭」を設置しました。

昨年同時期に引き続いての活動です。作業場所は大野山登山道入り口手前谷側（約1ヘクタール）です。今回は18期のインストラクター3名が加わり総勢16名が3班に分かれての活動です。班ごとに丸太筋工用の横木丸太2m・6本、杭1m・6本、径路整備用の横木丸太2m・4本、杭60cm・8本（すべて県産材ロータリー丸太）、そしてカケヤ、トウグワ、シノ、番線、番線カッター等の道具を持って作業場所に移動しました。

午前中は、丸太筋工の実習として山を流れ下る水路となって削られた箇所へ土留を設置しました（各班幅2m×3段の丸太筋工を2箇所）。カケヤで杭を垂直に打ち込むこと、シノで番線を二重螺旋状に適度に締めること、番線のクロスポイントを直線にすること等に注意しておこないました。

午後は、午前の丸太筋工の応用として径路整備をおこないました。谷側に向かっての直線的な径路で路肩を横木丸太と杭をカスガイや番線を使って結束、補強し、踏み面を平らにし、現場にあった間伐材も利用し約25mを整備しました。



斜面下部まで径路がつながるのはまだまだ時間がかかるかもしれませんが、その日を楽しみに、また来年続きをおこないたいと思います。

（記 田島 聖一郎⑬、写真 斉藤 夏葉⑬、中澤 靖彦⑬、岩田 典義⑬、田島 聖一郎⑬）

【第 121 回森林探訪】冬の多摩丘陵 黒川谷ツ公園・よこやまの道を歩く

日時：令和 7 年 1 月 26 日（日）10:00～15:00 晴れ

コース：はるひ野駅→黒川谷ツ公園→よこやまの道→特別緑地保全地区→黒川駅

参加者：大人 40 名、子供 1 名

インストラクター：L 内野⑨、松石⑬、西岡⑭、小池⑰、三好⑰、堤⑱、橋川⑱

森林探訪で冬の多摩丘陵の植物や鳥の観察会が、川崎市麻生区の黒川谷ツ公園とよこやまの道で開催されました。冬の観察会ということで、目立った草花は見られない時期ですが、冬ならではの木々の冬芽の様子や春を待つ草花の芽生えを確かめることができました。当日は朝10時に、小田急多摩線のはるひ野駅北口の黒川谷ツ公園下の広場に集合しました。天候は冬晴れ、多少北風が吹いて寒かったものの、元気な参加者が小学生から80代の方まで幅広い年齢層の方でした。今回は約8名ずつ5班体制で実施しました。黒川谷ツ公園は地元のはるひ野里山学校管理運営協議会という団体の方々が、保全管理を行っているところで、決められた日時のみ開放しています。

広場で自己紹介や簡単な体操を行なった後、山道へ。入口付近でマンネンタケを発見。ウグイスカグラの花やムラサキシキブの冬芽を見たりしました。しばらく行くと湿地帯に入ります。公園内の田んぼ沿いには、アメリカザリガニを駆除するためのトラップが仕掛けられていました。外来種から貴重な生き物を守ることもしていました。この辺りは湧水が流れてきていて、ヘイケボタルやゲンジボタルなどの貴重な生き物も生息しているとのことでした。

地元の管理団体の方々が、作業の合間に説明もしてくださり、参加者も土地ならではの話に聞き入っていました。近くには、タマノカンアオイやシュンランも見られました。また、サルトリイバラやマンリョウのきれいな赤い実も見られました。



マンネンタケ



サルトリイバラ

坂を上って尾根に出ると、そこからよこやまの道となります。入り口にスイセンの仲間が生えており、春の訪れを感じました。坂を上ったところにオギが生えていました。ススキとの違いを説明しました。さらに奥に進んでいくとヒメコブシの大木やヤマザクラの大木があり、花の咲く時期にまた来たいという声がたくさんありました。アズマネザサが多くなり、タケも多くなってきました。この辺は、ナラ枯れの影響でコナラを伐採してきたところですが、その後ササやタケが多く生えてくるようになってしまいました。最高峰の諏訪ヶ岳につき一服しました。1445mもあるんだという方がいらっしゃいましたが、点が一つついていて144.5mでした。なあんだというため息に疲れも和らぎました。さらに、下ってひと登りしたところが防人の見返り峠。飛鳥・奈良時代に防人として、

関東から九州の守りについた防人たちが、故郷である関東を見納めるために見返りをしたという伝説の場所。眼前に広がる大パノラマにしばしくぎ付けでした。丹沢山塊から富士山、農鳥岳、奥多摩、



秩父連山、さらに上州の山々までが一望でした。天気にも恵まれ最高の眺めを堪能しました。

トイレのある場所でようやく昼食。さらに西に向かって歩きます。国土舘大学前から黒川の里山に向かい

ます。途中カニクサやカラスウリなどを見ながら下ります。時折コゲラやメジロ、シジュウカラが顔を見せてくれました。里に下りるとホトケノザやオオイヌノフグリなどの春の草花がちらほら見受けられました。ゴールの近くでは、ロウバイの黄色い花が甘い香りと共に出迎えてくれました。春を間近に、充実した観察会となりました。

なお、はるひ野里山学校管理運営協議会さまには下見時に公園を開けてくださるなどお世話になりました。ありがとうございました。

(記 三好 浩一①⑦、写真 内野 ミドリ⑨、松石 藤夫⑬)

会員コラム

「横浜みどりアップ計画市民推進会議」にかながわ森林インストラクターの会会員が参加しています

東京圏内にある横浜市は約 400 万人が住む大都市ですが、市民生活の身近な場所にまとまった規模の樹林地や農地などがあり、水や緑の環境に恵まれています。この環境を生かし次の世代へ引き継ごうと 2006 年「横浜市水と緑の基本計画」が策定され、また 2009 年には財源として市民税「よこはまみどり税」が導入されました。同計画に基づく施策は「横浜みどりアップ計画」と名付けられ、公募による市民委員の助言・モニタリングを経ながら 4 年ごとに目標と具体的実施プランが見直されて「横浜らしい水・緑環境の実現」に向けた取組を展開しています。また、施策では情報公開を基本理念としており 2023 年度までの事業実施全報告は横浜市の HP から閲覧可能です。

https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/midori-koen/midori_up/jigyou_houkoku.html

同時に市民推進会議の議事録はすべて公開されています。かながわ森林インストラクターの会会員 15 期飛田は 2024 年度から市民委員として、特に市内の森林環境保全施策についての議論と、横浜のみどりについて情報発信を行う分科会にて SNS 活用の検討・実施に参加しています。これら会議内容も横浜市の HP で閲覧可能です。最新では昨年 10 月の全体会議の様子が

https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/midori-koen/midori_up/kaigi/kaigikaikaisaikiroku/kaisaikiroku.html

からご確認いただけます。



よこはまの環境施策は全国的に類をみない大都市としての取り組みであり、2027 年 Green Expo 開催や特別市法制化への動きと相まって神奈川県との関係の文脈でも目を離せないフェーズに入りつつあります。私たち市民委員は新たな SNS による横浜みどりアップ情報発信の 2025 年度中始動に向け現在作業中です。ご注目ください。また、今後かながわ森林インストラクターの会としてどのような協力・貢献が横浜のみどりアップに行えるか、機会をみながらご報告いたします。

(記 飛田 尚弥⑮)

シリーズ 『やま』の色々

第7回 生物多様性について考えてみます⑦

人工林と天然林

公益社団法人 大日本山林会参与 桜井尚武 氏

「生物圏」という語で括られた生物社会の基礎をなすものの一つが山であり自然だと考えられます。この生物圏を大きく改変して「人間圏」として独立のまとまりを区別しようという動きがあることまで述べました。そのような状況下で「人間圏」に組み込まれないように、あるいは動物園や植物園の様に囲い込んで生物圏時代の自然を保全しようという動きが各界で盛んですが、このことは当面差し置きます。

森林には色々な区分がありますのでその理解を共通のものとするために、先ず「森林」を考えてみます。色んな説がありますのでこれが正しいというものを提供できる自信はありませんが、そこそこ妥当と思うことを述べます。



図1_皆伐地_20110823_ 紀伊田辺

森林とは字義通り森と林を総称するものです。森と林の違いは何なのかの定説はありません。これはキリがない程多数の見解がある代物で、ヒトそれぞれの森や林があり統一した定義が出来ないため両者の区別は明確ではありません。森林について森林法では「木竹が集団して生育している土地及びその土地の上にある立木竹、これら土地の外、木竹の集団的な生育に供される土地」、IPCCの京都議定書における日本の森林の定義では「最小面積0.3ha、最小樹冠被覆率30%、最低樹高5m、最小森林幅20m。(国連気候変動枠組条約第3回締約国会議(COP3)で採択された取り決め、1997)」としています。



図2 _牧野_198508 頃_ 北上山地の草地

ここで目を留めて頂きたいのは竹林と原野（低木や雑草が優占して高木のない空間）は森林法の管轄範囲という事です。これらは今は樹林地でないが基本は森林になるべき土地あるいは立地が特殊で高木が育たないところであるということだと考えられます。木を伐ってしまつて更地になった空間も森林（林地）と区分されます（図1）。やがては森林になる対象ということです。原野のようですが採草放牧地は農地法が管轄する農地です（図2）。



図3 _森は海の恋人植樹、
今回は広葉樹を植栽_20140602_宮城

次いで人工林と天然林の違いです。人工林は目標とする林を作るべく、ヒトが植えたり種を蒔いたり挿し木したりして目的樹種を主とする林を造成したもの（図3）、天然林とは発生にヒトが関与せずその後の生育にもほとんど人手が係っていないものをいいます（図4）。伐採後の切り株から出る萌芽で出来る雑木林は天然林としています。落下し着床した種子が発芽し根付きやすいように地掻き等をする事や発生した稚樹や幼樹にその生育を助けヒトの望むような林に誘導した林分の場合には「天然生林」の語を充てるのが普通でこれは人工林です。



図4 _雑木林_20100416_ 美ノ山（蓑山）埼玉、
萌芽更新の天然林に多い株立木が目立つ

桜井先生のご執筆内容にご感想やご質問がありましたら
先生のアドレス

hayachines@yahoo.co.jp にお送りください！

活動短 信

今回の掲載は R6 年 12 月 23 日から R7 年 3 月 7 日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

4 月(卯月)(旧暦 3 月弥生)の
二十四節気、七十二候、鳥こよみ

清明 4/4 穀雨 4/20、鴻雁北(こうがんかえる 4/9～4/14)。雁が北に帰る季節。「雁風呂」は春の季語。雁が持ってきた枝で風呂を焚き、冬の間に亡くなった雁を供養したという津軽地方の民話に基づきます。
鳥こよみ: 水源林にミソサザイの囀りが響く季節。小さな体からは想像できない大声で、複雑かつ早口に歌います。ミソは「溝」、サザイは「些細」。沢に住む小さな鳥を意味します。「味噌サザエ」ではありませんよ!!

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です(200 字程度で、Word、メール直筆は可、Excel は不可)。
写真はなくても構いません。

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付:令和 x 年 x 月 x 日(曜日)できれば時間と天気も

場 場所 (例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

参 参加者 人数

県 例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財 (公財)かながわトラストみどり財団、**看** 看護師

ス 例 小田原市森林組合 XX 様

例 川崎市公園緑地協会・XX 様

イ インストラクター① (○数字:期) **研**:研修枠

以下、本文を 200 字前後を目安として執筆ください

リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名、写真撮影者名=フルネーム+期 もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします m(_)_m

◆ 横浜市立善部小学校

環境・エネザ-学校派遣事業～かながわ環境教室～

「土の中の生き物ウォッチング “土の中の宝物探し”」

日 令和 6 年 12 月 23 日 (月) 9:00～12:00 晴れ

場 横浜市立善部小学校 (校庭、教室)

参 個別支援級 1～6 年生 18 名、教師 5 名

イ L 井出①、谷川⑪、國弘⑭、石垣⑮、小国⑰、小池⑰

かながわ環境教室に講師として応募する際、特別支援学級(横浜市では「個別支援学級」)に対応可能かどうか、当初は大いに迷いました。まず対話ができるか、授業として成り立つかどうか不安でしたが、実際にやってみると複数の先生方の付き添いもあり、今思うと全くの杞憂でした。ただ、今回は対象学年が 1～6 年生と幅広いのが懸念材料でした。そこで、幅広い学年に受け入れられるように、土や土壌生物に対する興味・関心を高めることを目的

に、事前の学校との打ち合わせを踏まえて授業内容を策定しました。

① 土の中の「たからもの(お気に入り)」をさがす。(土壌生物、タネ、草など)

② 生き物を見つけたら、生き物一覧パネルにシールを貼る。(多様な生き物がいることを実感する)

③ 土壌生物に親しむ。(ダンゴムシ迷路)

今回も、土の中の生き物を探す際の子供たちの集中力は素晴らしいものでした。カメムシ、トビムシ、ハネカクシ、ダンゴムシなど、見つけた生き物の名前を付箋紙に書いて宝箱シートに貼っていきます。

中には、一人で声をあげながら何かを書いている子がいました。ダンゴムシ迷路を始めると、その子は率先して



参加しました。書いていたのは先生を相手にした迷路でした。迷路を描くことは、創造力、問題解決能力、空間認識力など、多くのスキルを育む活動です。このようなスキルを活かして、将来彼は何になるのでしょうか。

(記・写真 井出 恒夫①)

◆ 雪印メグミルク株式会社海老名工場様
森林再生パートナー活動

日 令和 7 年 1 月 17 日 (土) 9:45～12:30 晴れ

場 県立 21 世紀の森

参 15 名 (大人 15 名、子供 0 名)

県 神奈川県水源環境保全課 藤原主査、星主事

イ L 岡村⑩、小国⑰、川口⑱

森林再生パートナー活動として、海老名よりお越しいただきました。前日は冷え込む寒さでしたが、当日はお日様も味方して、風がない穏やかな晴天の元で枝打ちを行うことが出来ました。全員で準備運動を終えて成長の森へ向かう途中、我々の少し前にインストラクターに率いられて活動を始めた小学生グループとすれ違いました。元気潑刺な子ども達の挨拶に、元気をもらい、にこやかなムードで現地へ到着しました。



枝打ちの意義とやり方の説明を聞き、活動に入りました。そのエリアは、地面から数センチのところまでびっしりと枝を生やした木々が鬱蒼と茂り、どんよりと暗い森が広がっていました。枝打ちが初めてという方も多く、慎重に、見ながら聞きながら進めていた作業が、1

本の木が終わる頃には、切ることが楽しくなってきた様子で、みなさん黙々と集中して取り組んでいました。作業時間は、正味 1 時間ほどと短かったです



が、無理をせず、適宜休憩や水分を取りながら進めました。体を動かすので暑くなって上着を脱ぐ方もいらっしやいました。気が付いてみると、暗かった森の視界がどんどん開け、あと何本と分かる程になり、ゲートや通路までも見渡せるような明るい風通しの良い森になりました。心地よい疲れと共に達成感、充実感を得られたようです。とても爽やかな和やかな雰囲気です。今回の作業目標「安全に」「デベソなし」に従って、「この枝切ります。」と声をかけたり、切り終えた木を手で一周触って確認したりと、丁寧な姿がとても印象的でした。

道具を片付けた後、森林館の展示コーナーへ移り、水源林や枝打ちと巻き込みの様子モデルと一緒に見て、解散となりました。

(記 川口 香奈^⑧、写真 小国 一男^⑦)

◆ 県民参加の森林づくり活動 除伐

日 令和 7 年 1 月 25 日 (土) 9:10~13:20 晴れ

場 伊勢原市子易

参 大人 46 名 子供 (小 6) 6 名

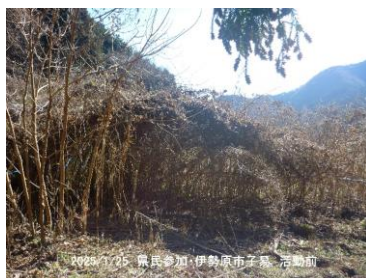
財 倉野様、藤本様 看 青木様

ス 神奈川県森林組合連合会 1 名

伊勢原市 3 名

イ L 西出^⑫、井出^①、鈴木^⑧、山下^⑪、西村^⑮、岡村^⑯、雨宮^⑰、指澤^⑱、繁山^⑲、堤^⑳、渡邊^㉑

青空が広がる絶好の活動日和となったこの日、参加者の皆さんの精力的な活動のおかげで、荒れていた農地が見違えるように整備され、参加者の皆さんも活動の結果に満足された様子でした。



活動場所は、大山南側山麓の民家が点在する丘陵地帯ですが、過疎化が進んで使われなくなった農地が放置されていて、イノシシがあちこちで地面を掘り返しているような所です。人と獣の境界が明確でなくなり、その結果、イノシシや時にはクマまで出没するようになったという訳です。そのため、伊勢原市が整備をすることになり、今回、県民の皆さんに活動して頂くことになりました。

た。活動前の状況は、ササや雑木が生い茂り、中を通るのも困難な状態でしたが、5 班に分かれて、作業路から除伐を始めて、順次、中側に進んで、2 時間の作業の結果、見通しの良い空き地に変身しました。

ボーイスカウトの少年たちも、インストラクターの指導の下で活動に励んでくれました。見通しも良くなり、イノシシの出没もなくなるのではないのでしょうか。頑張って頂いた参加者の皆さん、ご苦労様でした！

(記・写真 西出 健一 ^⑫)



かながわしずくちゃん Twitter は下記 URL で見るができます。

かながわの水源地環境の
保全・再生をめざして

https://twitter.com/kanagawa_sizuku

◆ ネットワーク活動

令和 6 年度 緑のレンジャー講座 第 9 回

日 令和 7 年 2 月 1 日 (土) 10:00~12:00 晴れ

場 鎌倉中央公園管理事務所 2 階研修室

参 大人 17 名

ス (公財) 鎌倉市公園協会 後藤様、西野様

他 NPO 法人鎌倉みどりのレンジャー

小池様、島田様、中村様、渥美様

イ L 國弘^⑭

1. 森林インストラクターによる講義

一自ら組み立てる自然の保全活動のカリキュラムー
今後の保全活動を行っていくなかで、楽しいこと、好きなこと、疑問等から、自身にとって必要な経験を積み重ねていただきたいとの目的で講師の体験を話しました。

講義内容:

① ボランティア活動の面白み

多世代の人々や多様な才能や経験を持つ人々と交流できる、新発見がある、スキルアップを楽しむ等があります。

② 講師自身の体験談

都市緑地の保全を始めて攪乱がきついのではないかとという疑問が、知識、技術を身につけたいとの動機付けになりました。保全活動を続けながら植物調査、自然観察指導員の登録、ビオトープ管理士の取得、かながわ森林インストラクターとしての保全活動、学校の環境教育への参加、動物・土壌水生生物の観察等をしていくなかで、次のことを学びました。

生物多様性を図り、森林・樹林地の植生に合った保全を行うためには順応的管理 (PDCA サイクルによる管理)

が必要です。動植物を環境指標生物ととらえ、生活史を理解した上で生育生息状況と環境状況を観察します。両者の関係から生態系の変化を認識し、さらにこの変化と保全作業との関係を検証します。これに基づき保全方法を見直していきます。保全活動を継続的に担う人が観察することが大切であり、観察と保全活動を乖離させないことが肝要です。

将来の目標は観察結果を主軸に、所有者、保全担当者、保全担当者以外の動植物等の調査者等が協同して意見を出し合い、保全対象地にとって丁度良い保全方法を見直すことができるようになることです。

2. 公益財団法人 鎌倉市公園協会 後藤氏によるボランティア団体の紹介

公益財団法人鎌倉風致保存会：鎌倉の自然と文化財を後世に伝えるための会員制のボランティア制度です。

公園サポーター：自然と人とふれあい、学びながら公園管理を行うボランティア制度です。

3. NPO 法人鎌倉みどりのレンジャーの説明

①小池氏、島田氏より

当法人は市民、行政、他の事業者と協力し、鎌倉の緑を保全管理する市民活動団体です。当講座の卒業生が保全活動を希望する場合の受け皿となっています。活動メニューと活動エリア、安全な活動のための体制、入会案内、植生調査の実績について説明がありました。

②緑のレンジャー講座の卒業生の中村氏、渥美氏より
当法人は活動メニューが多く自分の生活スタイルに合わせて活動しやすい、道具が揃っているのですぐに活動がはじめられる等、受講者に大切な説明がありました。受講生の皆さんは熱心に受講され、これから保全活動に参加していくことが楽しみの様子でした。

(記 國弘 明子^⑭)



◆ 県民参加の森林づくり活動 除伐

日 令和 7 年 2 月 8 日 (土) 8:20~12:50 快晴

場 川崎市麻生区黒川 (黒川海道特別緑地)

参 56 名 (大人 : 55 名、子供 : 1 名)

市 みどり多摩川協働推進課 飯田様

財 かながわトラストみどり財団 倉野様、藤本様

看 看護師 青木様

ス 神奈川県森林組合連合会 1 名

川崎市公園緑地協会 野牛様、川瀬様

イ L 小国^⑰、山口^⑪、松石^⑬、伊東^⑭、野村^⑭、杉澤^⑯、小野寺^⑰、田島^⑰、鶴田^⑰、野口^⑰、

三好^⑰、小林^⑱、島崎^⑱、中島^⑱、廣瀬^⑱、藤巻^⑱

日本列島に寒気団が居座るなか、当緑地で 2 回目となる

「県民参加の森林づくり」が開催されました。当日は気温約 6℃ながら快晴で風もなく、体を動かす作業には良い天気となりました。



当緑地は約 20 年前に保全地区指定され、隣接する緑地から尾根筋に続く「よこやまの道」などの散策路が整備されており、市民の散策コースになっています。今回の活動はその散策路周辺の竹や笹を除去する作業です。朝、小田急線はるひ野駅に集合、徒歩約 20 分の道中にはインストラクターが立ち現地まで誘導、オリエンテーション、道具装着後、5 班に分かれて活動開始です。

今回は 3 組の団体を迎え、初めての参加者が多かったため、インストラクターよりノコギリの扱い方や竹の切り方など、丁寧に説明しました。休憩を挟んで約 2 時間の活動、ほとんどが傾斜地での作業でしたが、後半にはコツを掴んで作業する様子が見られ、終了時には写真のとおり成果がはっきりわかる仕上がりとなりました。



除伐作業を終えて、参加者からは、楽しかった、やりがいがあった、などの感想をいただき、昼過ぎ、怪我、事故無く活動を完了しました。

(記・写真 小国 一男^⑰)

◆ 第 18 回 県民参加の森林づくり (除伐)

日 令和 7 年 2 月 15 日 (土) 9:30~13:10 曇り/晴れ

場 南足柄市内山 (県立 21 世紀の森)

参 52 名 (予定 59 名)

財 古館様・藤本様 看 青木様

共 県立 21 世紀の森

イ L 内田^⑰、水口^⑨、古館^⑬、岩田^⑭、西村^⑮、高谷^⑰、中鉢^⑰、藤田^⑰、森本^⑰、小林^⑱、繁山^⑱

当日の朝は雲が多く軽く風も吹いていたのでやや寒く感じる朝だった。

9 時 10 分頃、開成駅西口より、バス 3 台で現地へ向かった。現地集合組と合わせて、一般参加者は 59 名の参加予定に対して 52 名が参加。「2024 かながわ緑の大使」西村亮祐さんも参加した。残念ながら初参加で最年少 10 歳の方は欠席となった。

9 時 30 分頃から、オリエンテーションが行われ、統括リーダーから当日の作業要領の説明と、安全目標として「急傾斜地での足元注意」、「声掛けを行い周囲注意」とすることが指示された。



その後、班ごとに徒歩で活動場所へ移動した。砂利道で急な下り坂のため滑って尻もちを付いた人もいたが大事には至らず予定通り現地到着した。

9 時 50 分頃、各班で作業方法、注意事項を説明し、作業を開始した。特に初参加の方には、ノコギリや剪定ばさみの使い方、切る時の姿勢、枝葉の払い方、等高線と平行にまとめる要領など丁寧な説明や実技で指導していた。途中、1～2回の休憩を入れて、各班とも作業をした。急斜面で足場が悪かったことや前年度の残材の前処理などで時間を取られ、全班とも予定領域の作業を完遂することはできなかったが、参加者からは作業前後の変化に十分満足との感想、初参加の方からも色々学べて楽しかったとの感想を頂いた。

11 時 50 分頃には作業を切り上げ、閉会式の場に戻り、「足柄茶」と「おんりーゆー特別入湯券」を頂き、今年度最後の県民参加は体調不良や大きな怪我もなく、無事終了することができた。



(記・写真 中鉢 実則①⑦)

◆ 小学生による公文書館の森 植樹活動

日 令和 7 年 3 月 7 日 (金) 9:00～11:30 晴れ

場 神奈川県立公文書館の森

参 65 名(こども 54 名、大人 11 名)

横浜市立中尾小学校 2 年生 54 名、教諭 2 名

NPO 法人こども自然公園どろんこクラブ 藤井(優)様、藤井(宏)様、山下様、伊神様、坂本様、土肥様、西口様、小林様(撮影)、神奈川県立公文書館 館長

イ L 小池①⑦、西岡①④、藤巻①⑧

雪予報で日程が変更になったが、当日は二俣川駅から現地まで坂を上っていく途中で真っ白な富士山と丹沢の山々がスッキリと見え、風は冷たかったが活動中は上着がいらないくらいの陽気となった。

隣接する中尾小学校 2 年生の児童たちが公文書館に 9 時到着。大会議場ではまず公文書館館長が挨拶され、次に主催のどろんこクラブ様が挨拶と植樹する桜



(大漁桜、舞姫、関山)について話された。その後、森林インストラクターが『森林のおはなし』をパワーポイントを使って解説した。プロジェクターは公文書館から借用し、パソコンはどろんこクラブ様が準備してくださった。解説を任せていただいたので、2 年生にも分かりやすいように「雨水のしずく君*」のアニメーションが入ったスライドを使い、なるべく問いかけをしながら、低学年の児童が飽きないように短時間で終わらせるよう努めた。室内で、手作りの苗模型を用いて 3 人で植え方も実演した。

児童はヘルメットを装着し、3 つのエリアに分かれて合計 14 本の苗の植樹スタート。主催者の意向に沿い、『水極め』という方法で行なった。水で土をドロドロにして根と土を密着させるようにし、最後に水鉢(水の溜まる場所)を作って水を入れて完了。エリアによって土質が違い水量の調整が難しかったが、今後の管理はどろんこクラブ様が行ってくれるそうで安心だ。児童も穴堀り担当、水汲み担当、枯れ葉や小枝を取り除く担当など上手く分担できた。コセンダングサのチクチク攻撃に遭ってしまった子どもやあふれた水で滑って遊ぶ子どももいたが、身体で自然を感じてくれたと思う。きっと忘れないだろう。

卒業する頃には、子どもたちの成長とともに桜の木もどれだけ大きくなっているか楽しみである。地域グループで連携してこの森を大切にし、環境教育の場として活用する素晴らしい取り組みに関わられて、嬉しく思う。*インストラクターの会オリジナルストーリーのキャラクターの名前です。

(記 藤巻 和美①⑧、写真 どろんこクラブ 小林様提供)



緑の募金
シンボルマーク



緑の募金キャラクター
どんぐりくん・どんぐりちゃん

かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取り組んでいます。全国で 5 番目/NPO 法人で初めて委嘱されています。

やどりき水源林ミニガイド

「やどりき森の案内人」

毎週土曜・日曜の午前10時と午後1時から「NPO法人かながわ森林インストラクターの会」会員が水源林をご案内します。やどりき水源林ゲート前までお越しください。詳しくはこちらからご覧ください。

<https://www.forest-kanagawa.jp/4field.html>

「やどりき水源林ニュース」

過去号は上記リンク先からご覧になれます。3月号「秘境「やどりき水源林」へ出かけてみませんか!」を掲載しました!



やどりき水源林問合せ：(公財)かながわトラストみどり財団

TEL：045-412-2255 / FAX：045-412-2300

<https://ktm.or.jp/> Mail: midori@ktm.or.jp

かながわ森林インストラクターの会

<https://www.forest-kanagawa.jp/> Mail: kinst0981@friend.ocn.ne.jp

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座00230-0-2454 かながわ森林インストラクターの会
宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

森のなかまは過去号もご覧になれます

(ホームページ) <https://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>
(HP担当：森本 利弘)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。原稿は随時受付けています。

<広報全般お問い合わせ>

河西 静夫
skasai0618@gmail.com

<電子配信会員向け担当>

小池 宗子
muneko-sakura@outlook.jp

<本誌、別冊原稿送り先>

河西 静夫
skasai0618@gmail.com
小国 一男
ka-oguni@ab.auone-net.jp

受信漏れを防ぐため本誌、別冊とも上記に2名にお送りください

令和7年度

「やどりきの森へ行こう」
上のリンクからアクセス!

2025/5/24(土)

第1回：五感で楽しむ森林浴
(募集30名) 募集中!!

2025/10/4(土)

第2回：溪流散策とやどりきの成り立ち (募集20名)

2026/3/15(日)

第3回：水源林のミツマタ群生鑑賞 (募集50名)

◇ 編集後記 ◇

★ 3月13日のNHKのラジオニュースで、強い毒を持つ外来生物のヒアリについて、国立環境研究所は早期発見や防除の研究などを進めるための実験施設を日本で初めて設け、ヒアリの飼育を始めましたと聞きました。過去に当会の森のなかま2017 (H29) .9月号本誌3頁に(ヒアリ)取材掲載していますのでご覧ください(下記URL)。尚、蜂と蟻はご先祖は同じだそうです。(女王がいます、団体生活をします)

<https://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku/kaiho/kaiho-258.pdf> (松本)

★ 令和7年度がスタートしました。年明けから早くも四分の一年が過ぎてしまったことに驚きと焦りと諦めが混じった感情が沸きあがってきます。

今年度も引き続き広報部を担当することになりました。インストラクター会の知名度アップと情報共有の一助となるよう活動しますので、ご意見、ご支援よろしくお願いします。(河西)

令和7年 寄しだれ桜まつり開催!

4月5(土)、6(日)、12(土)、13(日)の4日間開催です。樹齢250年の土佐原のしだれ桜など、個性豊かな「寄五大しだれ桜」は満開になると圧巻です。

また、中津川沿いには220本のしだれ桜が咲き誇る遊歩道もあり、満開の桜の道を散策することができます。

https://lets-go-matsuda.com/?page_id=1948



編集人： 河西 静夫
広報部： 黒川 敏史、松本 保、
笠原 かずみ、長尾 晴子、
小林 照夫、小国 一男、
小池 宗子、森本 利弘
支援： 大原 正志、吉田 郁夫

2025 年度 森林探訪

主催：NPO 法人 かながわ森林インストラクターの会

自然に親しみながら、森林を中心とした自然に対する理解を深めていただく、
森林インストラクターが案内する自然観察会です。

1. 円海山・大丸山から鎌倉へ

横浜のオアシス円海山エリアから、大丸山、天園を経て鎌倉宮に下ります。富士山の眺望を楽しみながら、気持ちの良い木漏れ日の中を歩きませんか。

開催日：2025 年 4 月 20 日(日) 申込締切：4 月 16 日

集合：9:00 JR 根岸線港南台駅改札前

解散：鎌倉宮 15:00 バスまたは徒歩で鎌倉駅へ

コース：港南台駅 - いっしんどう広場 - 大丸山 - 横浜自然観察の森
- 天園 - 瑞泉寺 - 鎌倉宮

歩行距離：10km 標高差 約 120 m



2. 津久井湖城山公園を巡る

戦国時代の山城「津久井城」の遺構や、豊かな自然と、津久井湖や周囲の山々の眺望が広がります。

開催日：2025 年 11 月 22 日(土) 申込締切：11 月 18 日

集合：9:00 JR 橋本駅改札前 バスで津久井湖観光センター前へ

解散：15:00 津久井湖観光センター前バス停 バスで橋本駅へ

コース：津久井湖城山公園（城山山頂、パークセンターを含み散策）

歩行距離：6km 標高差：250m



3. 聖峰と塔の山緑地公園

山と雑木林や、里地里山の自然を満喫し、保国寺や、相模国三ノ宮の比々多神社などを訪れます。

開催日：2026 年 1 月 31 日(土) 申込締切：1 月 27 日

集合：9:20 小田急伊勢原駅改札口 栗原行きバスに乗り保国寺前で下車

解散：15:00 神戸バス停 伊勢原駅か鶴巻温泉駅へ

コース：保国寺前 - 聖峰 - 塔の山緑地公園 - 比々多神社 - 神戸バス停

歩行距離：7km 標高差：340m



4. 高松山の眺望と早春の河津桜（健脚コース）

丹沢低山ハイクです。爽やかなスギ、ヒノキの水源林、富士山と相模湾を一望できる絶景、
そして見頃の河津桜が楽しめます。

開催日：2026 年 3 月 1 日(日) 申込締切：2 月 25 日

集合：8:10 小田急新松田駅 8:25 発のバスで高松山入り口へ

解散：15:30 西平畑公園 徒歩またはバスで新松田駅へ

コース：高松山入口 - 高松山 - 第六天 - 最明寺史跡公園 - 西平畑公園

歩行距離 14km 標高差：650m



定員：50 名（先着順） 参加費：1,500 円（当日徴収） 雨天実施（荒天中止）

持ち物：昼食、飲み物、雨具、シート、ハイキングのできる服装

<申し込み>：NPO 法人 かながわ森林インストラクターの会 自然観察部会

1) QR コードで（会の HP から）

2) e-mail：kanagawa_shizenkansatu@yahoo.co.jp へ

3) 〒243-0018 厚木市中町 2-13-14 サンシャインビル 604 へ往復はがきで
森林探訪名、参加者全員の氏名・年齢・電話番号・住所を記載してください。

お問い合わせ：TEL 080-8712-3804 担当 西岡



森の案内人☆特別企画

無料☆要申込

やどりきの森へ行こう！

第1回テーマ：五感で楽しむ森林浴

～ 森に癒やされるゆったり時間 ～

開催日：令和7年5月24日（土） 小雨決行 申込締切：5月10日（土）（3月24日受付開始）

場所：やどりき水源林（足柄上郡松田町寄） 定員：30名（先着順・最小催行人数20名）

集合：小田急小田原線新松田駅北口に8時30分までにお越しください。

神奈川県森林インストラクターがご案内いたします。

新松田駅～やどりき水源林ゲート間はバスを利用します。（バス代は各自負担：片道690円）

帰り：やどりき水源林ゲート 14:30 発 ⇒ 15:10 頃 新松田駅着 解散



森林散策



プログラムの一例だよ



ハンモック体験



水の音さがし

観る・聴く・触れる・嗅ぐ・味わうの五感で
自然を感じながら森を散策します。
新しい森での過ごし方を体験してください。

※天候によってプログラムが変わる場合があります。

● 問合せ先 ● 公益財団法人かながわトラストみどり財団 みどり森林課

TEL：045-412-2255 web サイト：www.ktm.or.jp

● 申込み先 ● NPO法人 かながわ森林インストラクターの会

住 所：〒243-0018 厚木市中町 2-13-14 サンシャインビル 604

E-mail: yadoriki@sirius.ocn.ne.jp

参加者全員のお名前、住所、電話番号を記入の上、往復はがき、又はメールでお申し込みください。
先着順にお受けします。なお、お申し込みが20名に満たない場合は中止となります。

注目!



<次回の予定>

第2回 10月4日（土）：溪流散策とやどりきの成り立ち

（受付開始 8月4日）

第3回 3月15日（日）：水源林のミツマタ群生鑑賞

（受付開始 1月15日）